

2023年5月25日

2023年3月期 決算説明会

麻生フォームクリート株式会社

<https://www.asofoam.co.jp/>

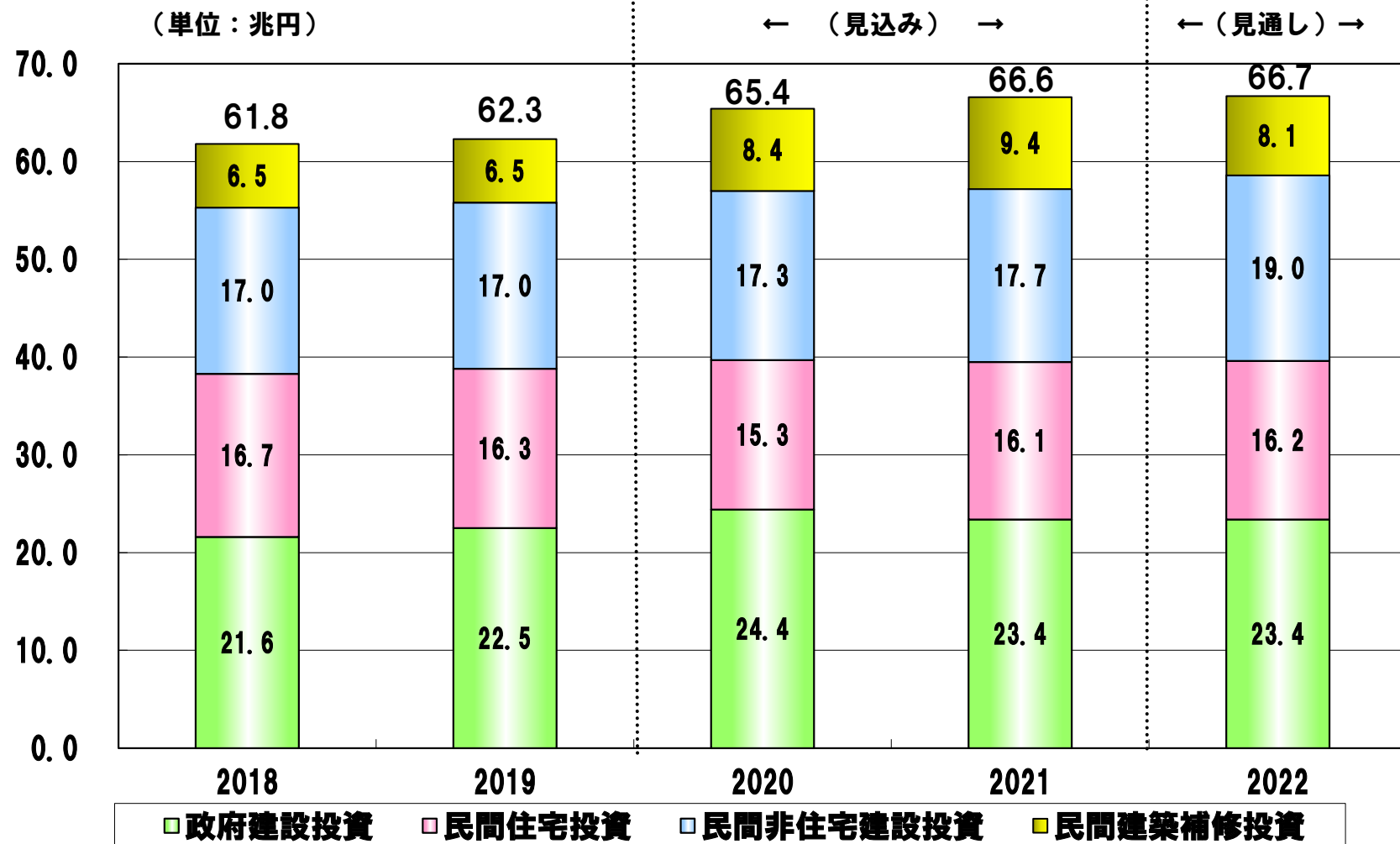
I. 2023年3月期 決算概要

2023年3月期業績ハイライト

(単位：百万円)

	19年3月期 実績	20年3月期 実績	21年3月期 実績	22年3月期 実績	23年3月期 実績	対前期 増減額
受注高	4,365	4,139	4,091	4,134	3,706	△428
売上高	4,282	4,030	4,623	3,594	3,572	△22
営業損益	40	64	215	△73	△24	49
経常損益	49	69	223	△65	△17	48
当期純損益	30	39	153	△52	△17	35

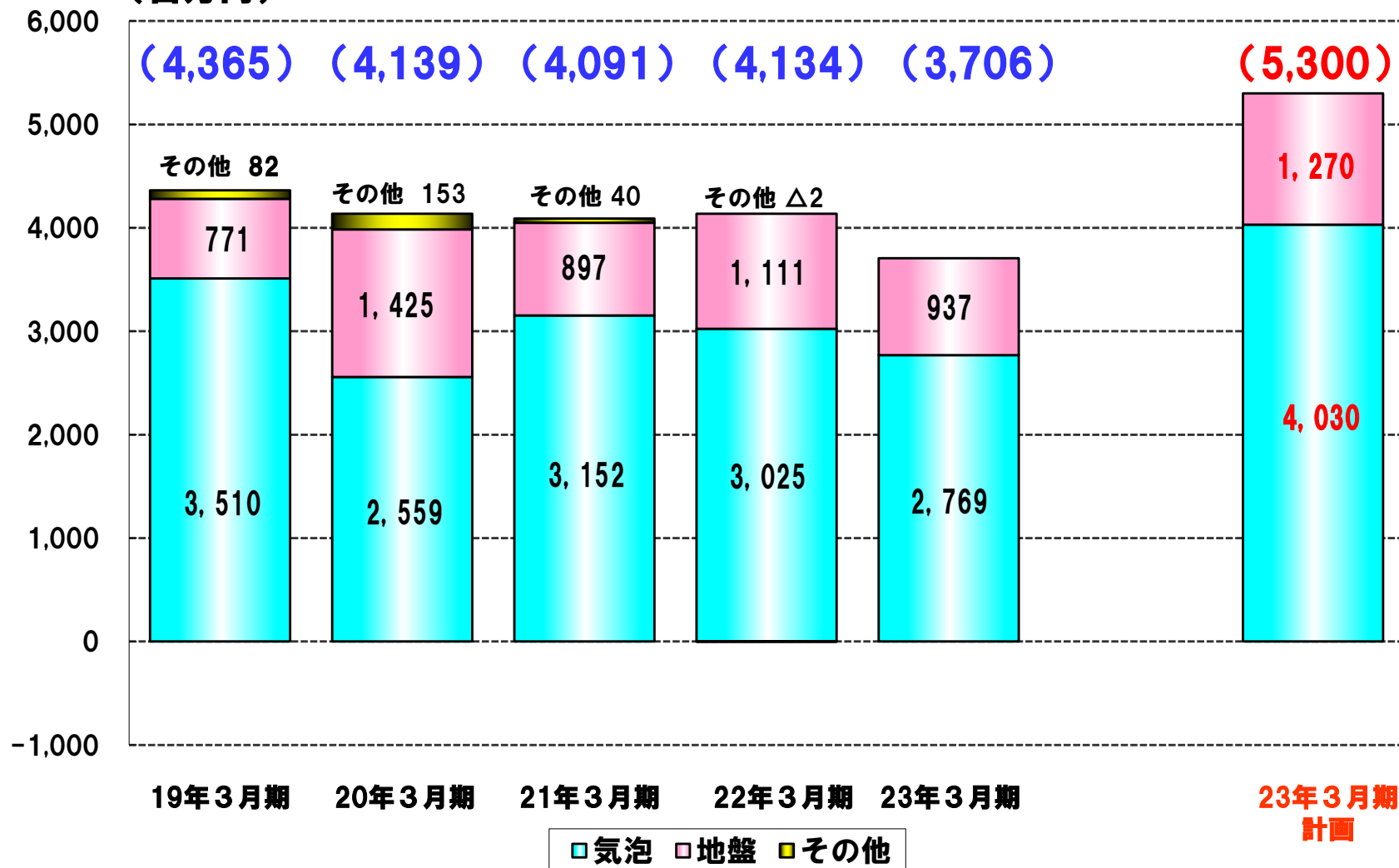
■名目建設投資の推移（年度）



参考：（財）建設経済研究所
 建設経済モデルによる建設投資
 2023年4月12日発表より

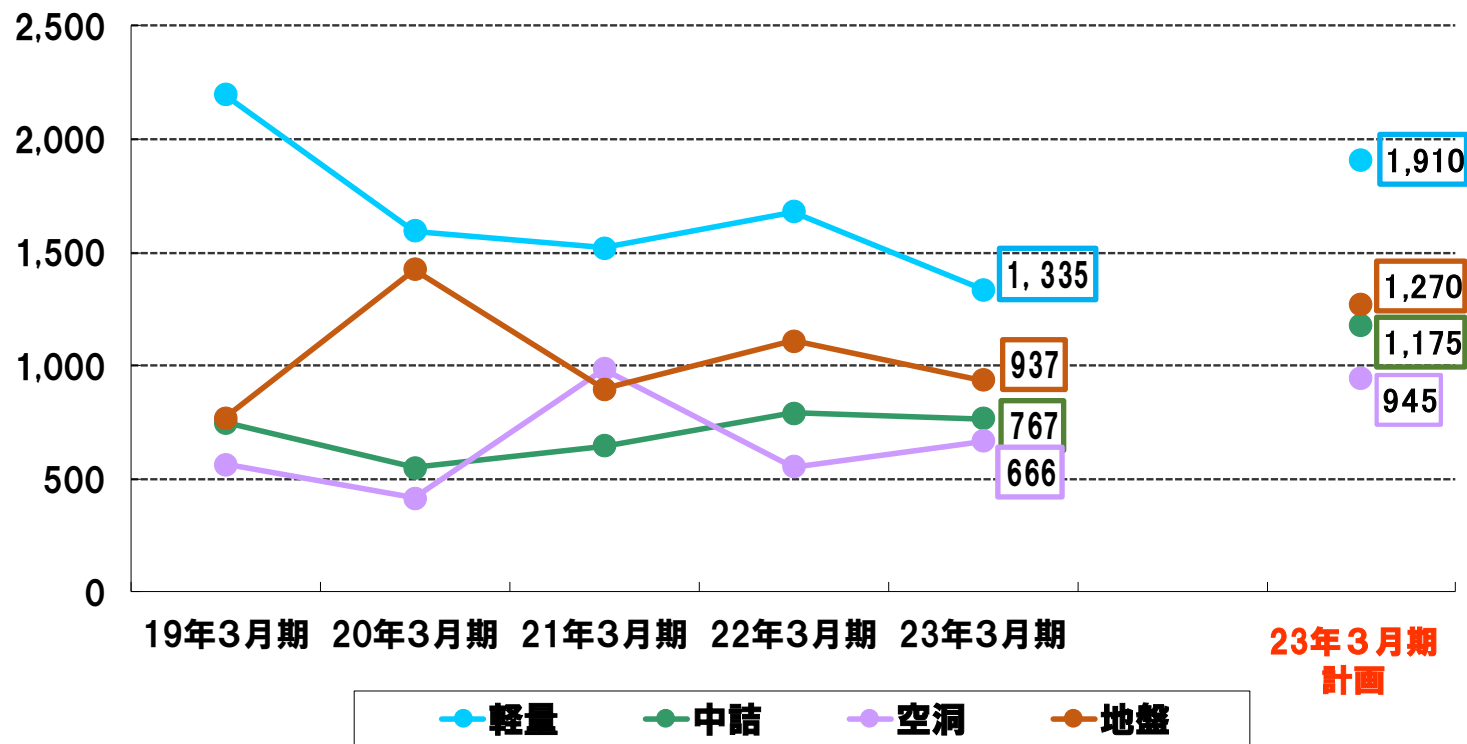
受 注 高

(百万円)



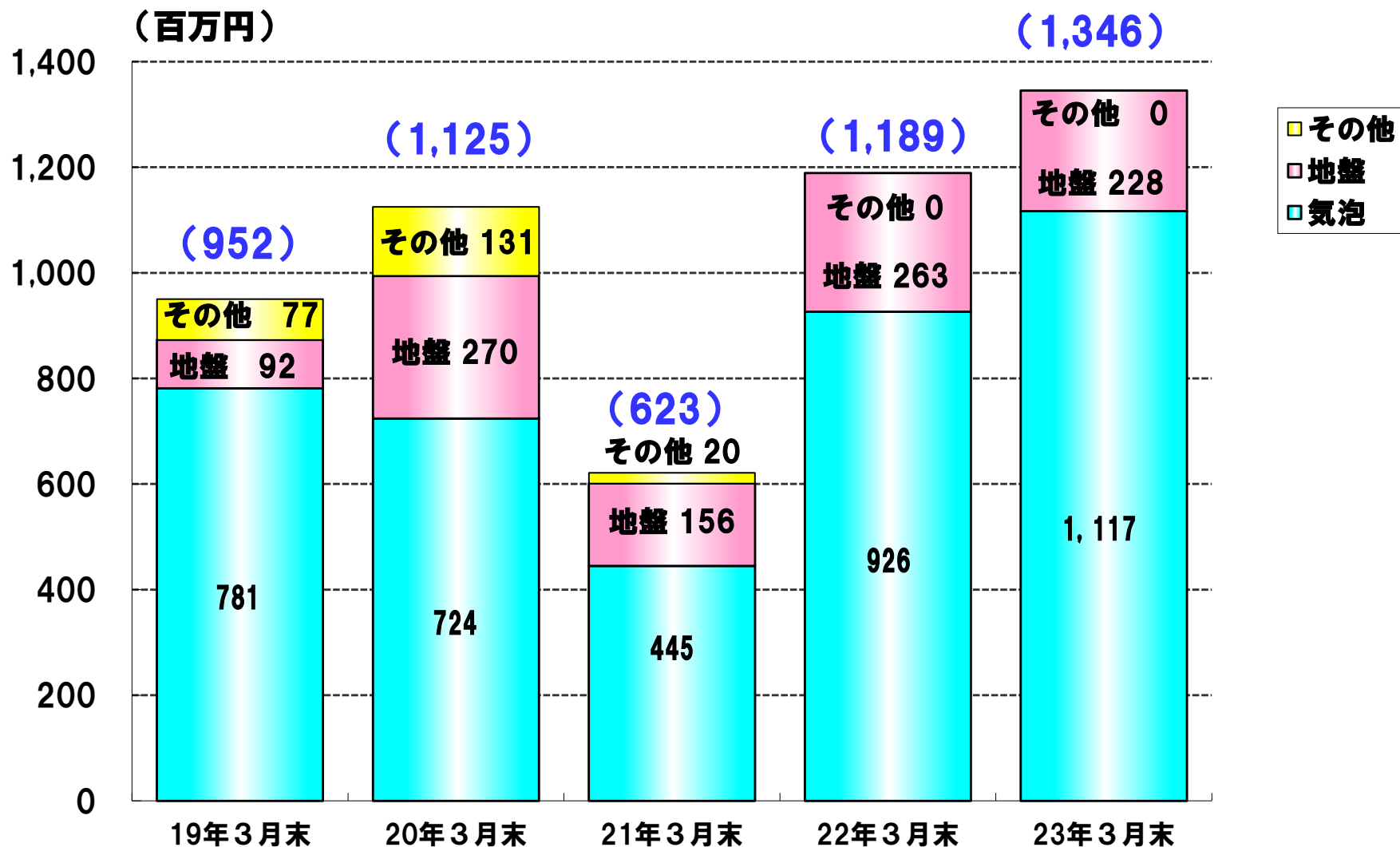
受注高推移

(百万円)



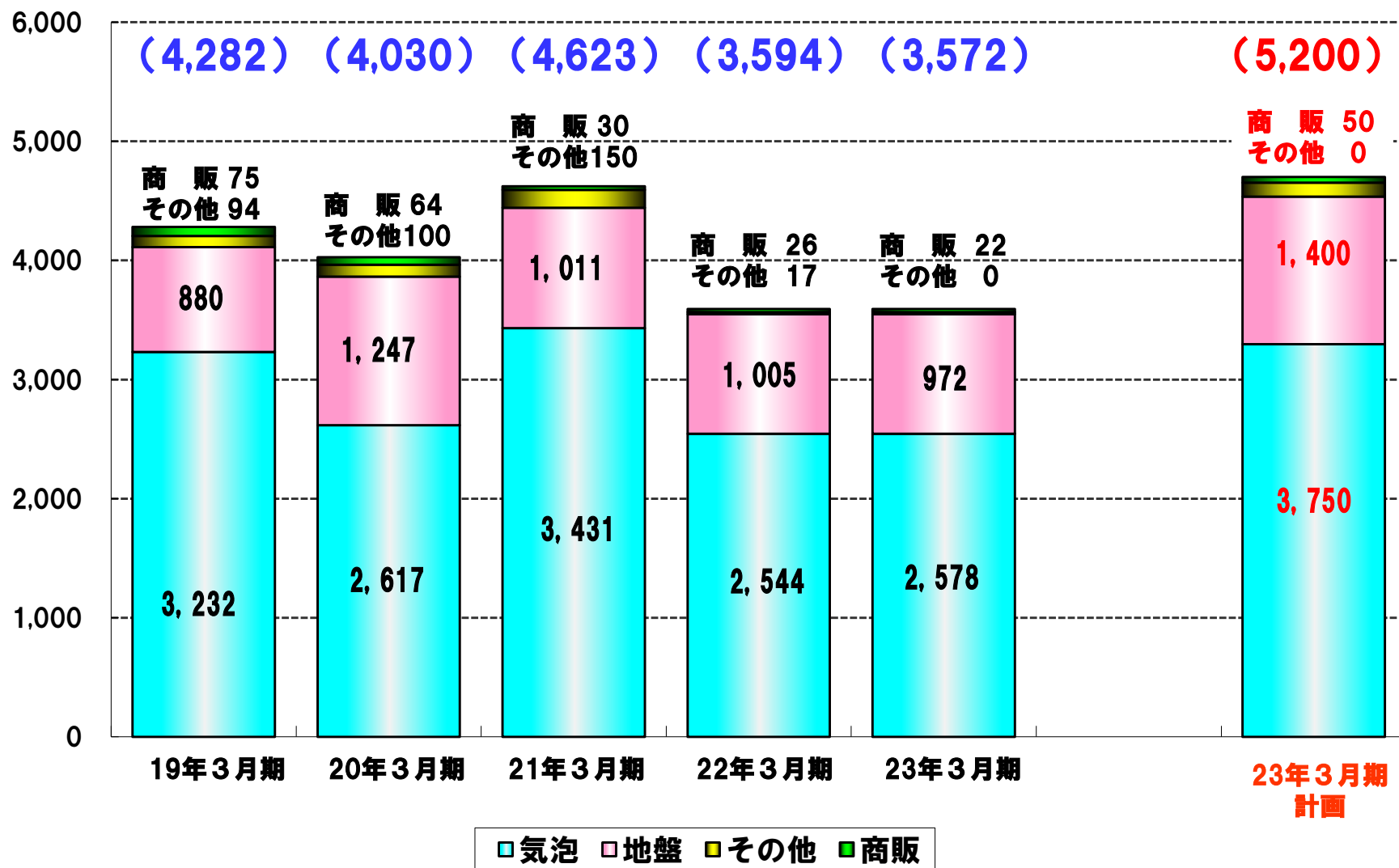
繰越工事高

(百万円)



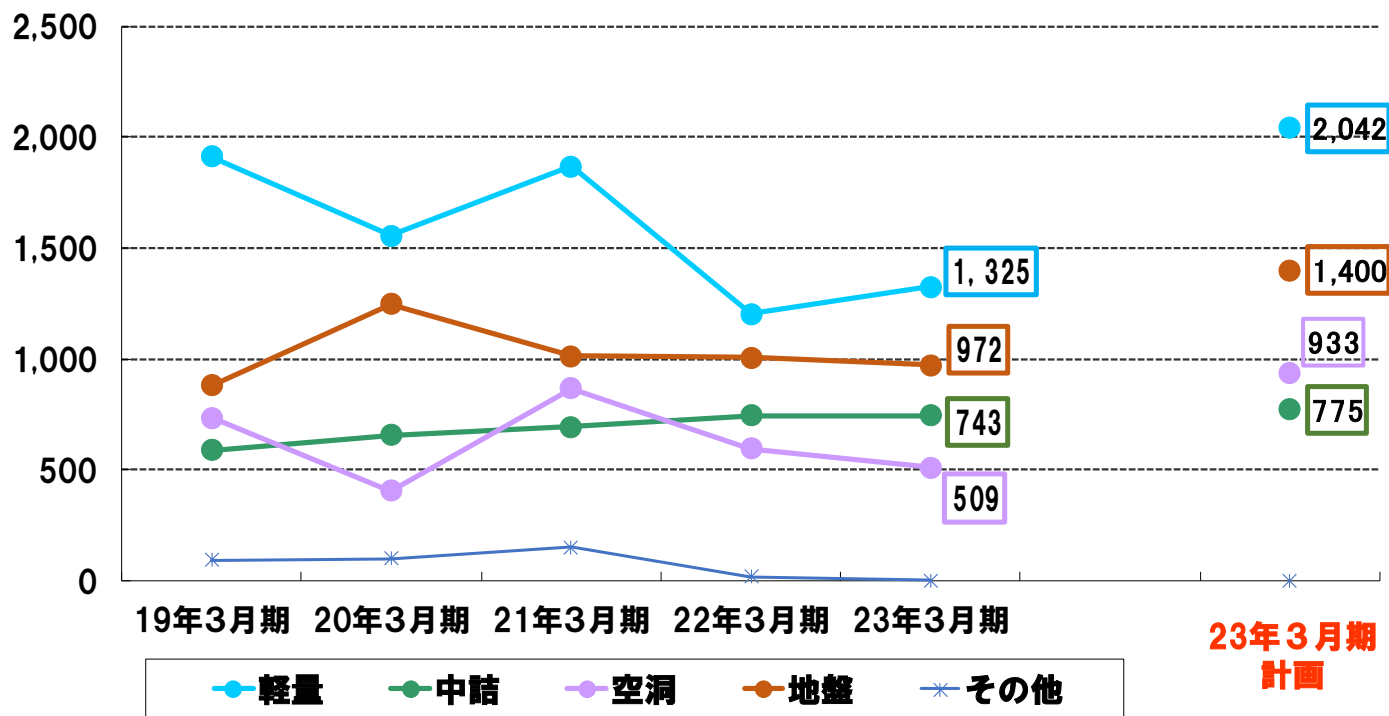
売上高

(百万円)



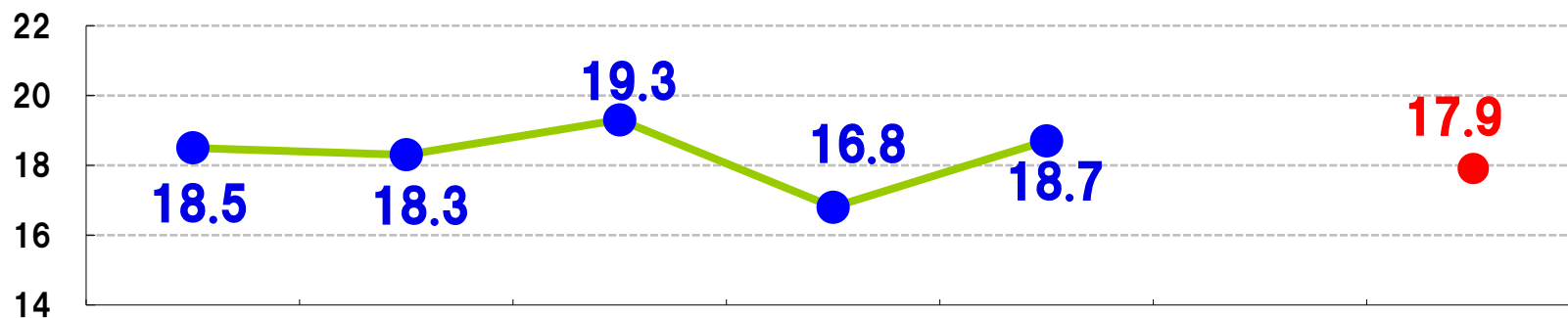
完成工事高推移

(百万円)

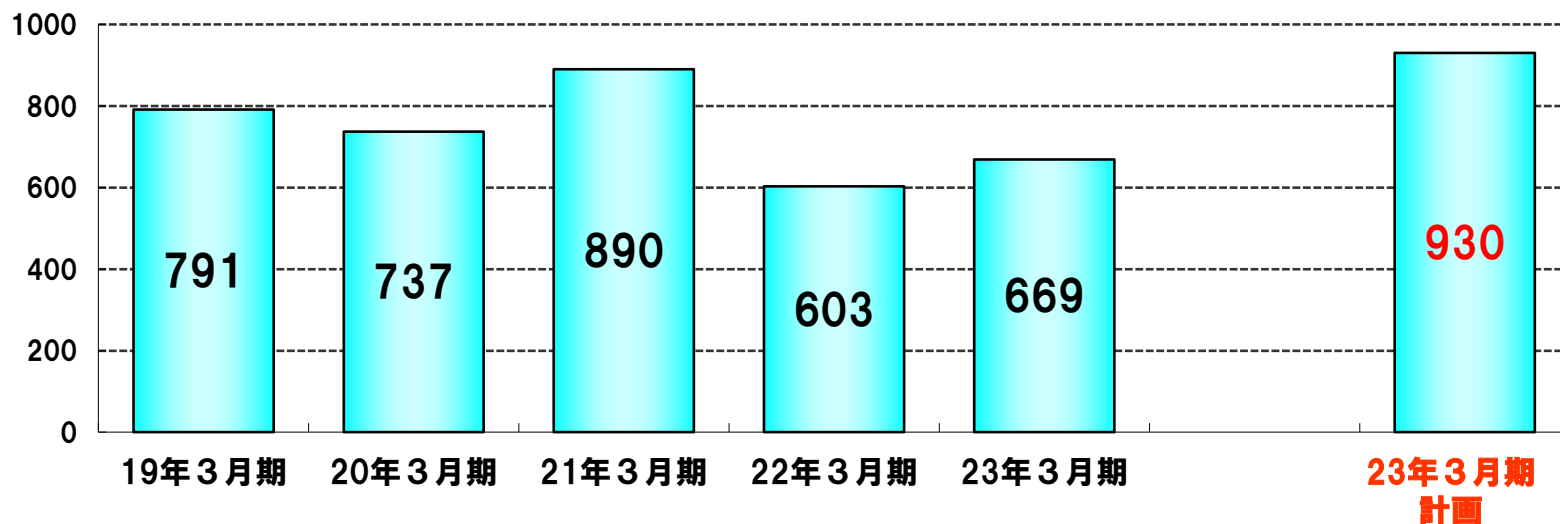


売上総利益

■売上総利益率（％）

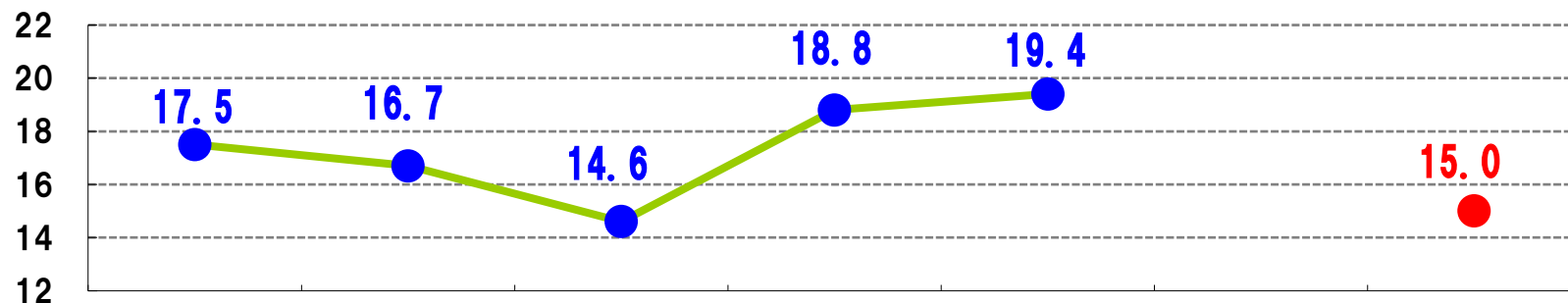


■売上総利益（百万円）

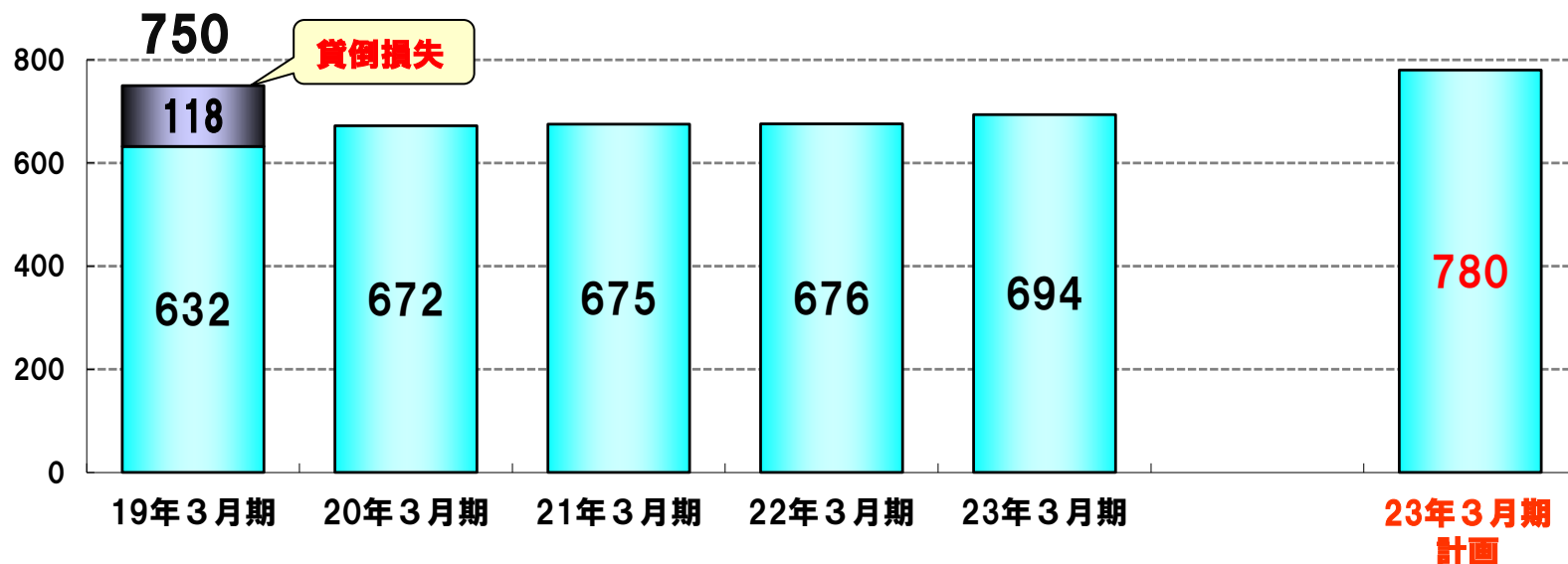


販売費及び一般管理費

■売上高販管费率（％）



■販売費及び一般管理費（百万円）

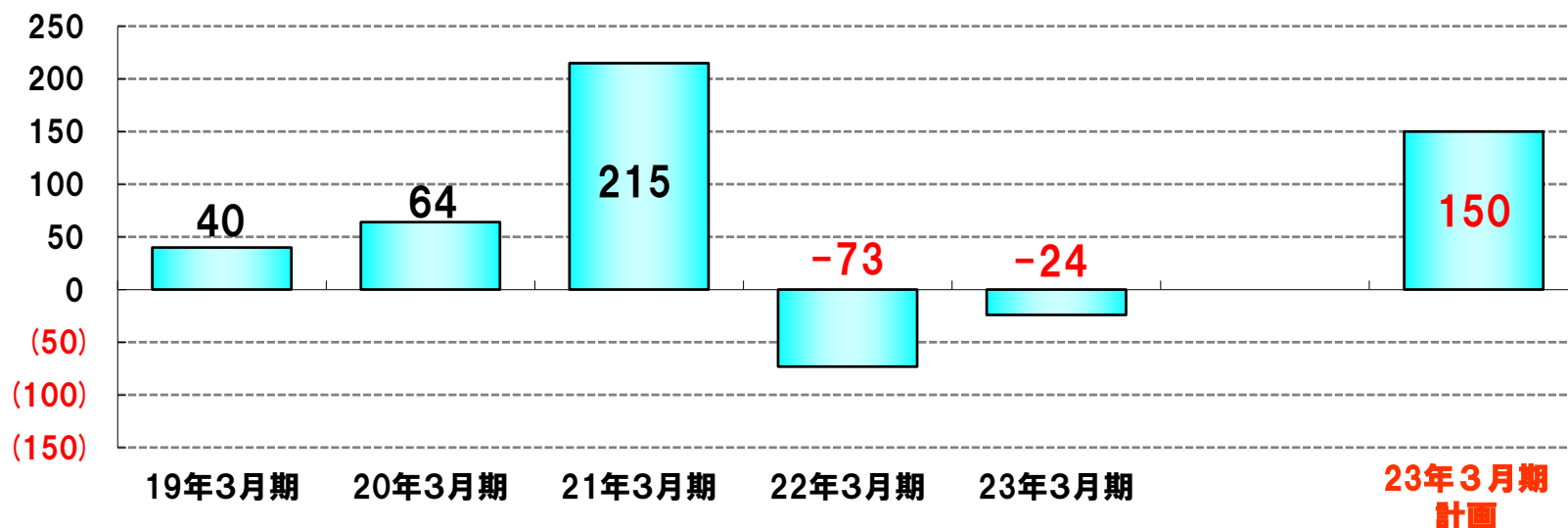


営業損益

■売上高営業利益率（％）

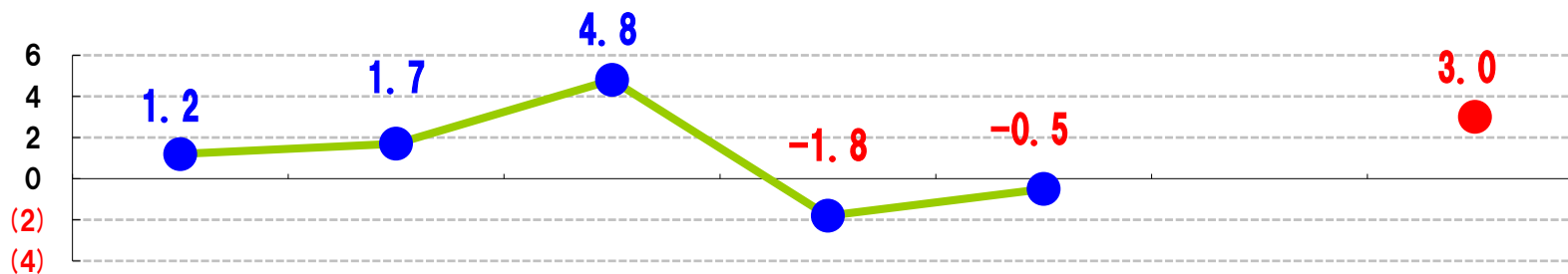


■営業利益（百万円）

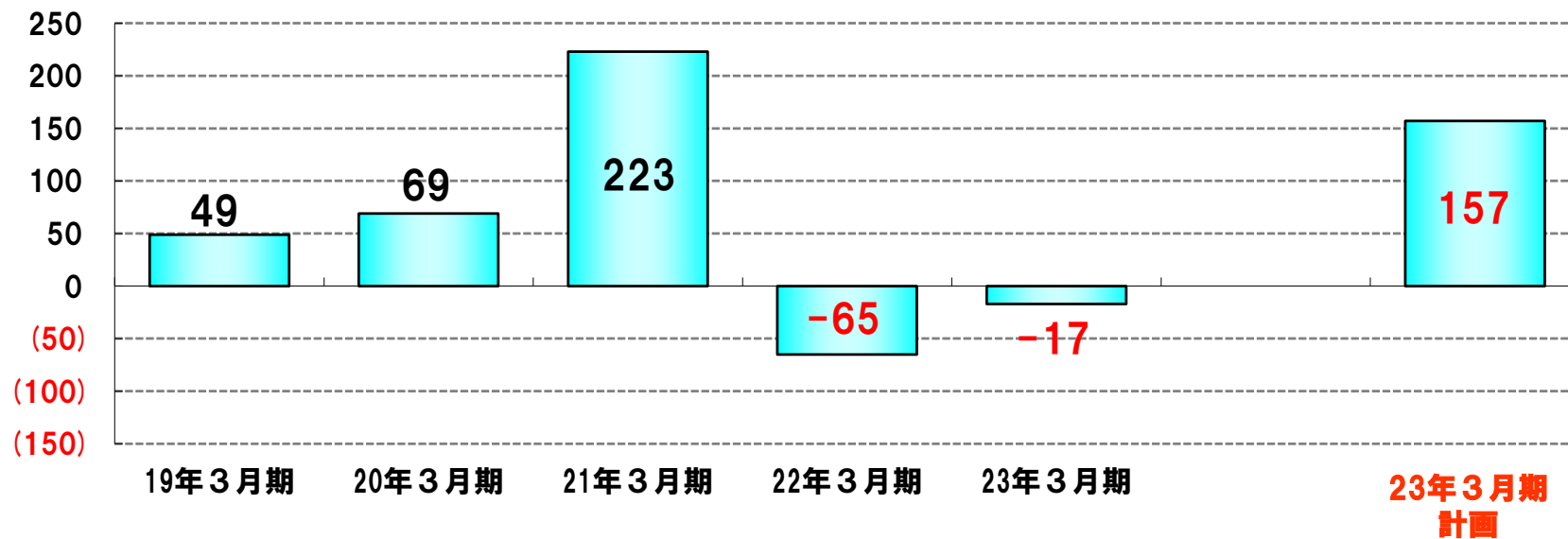


経常損益

■売上高経常利益率（％）

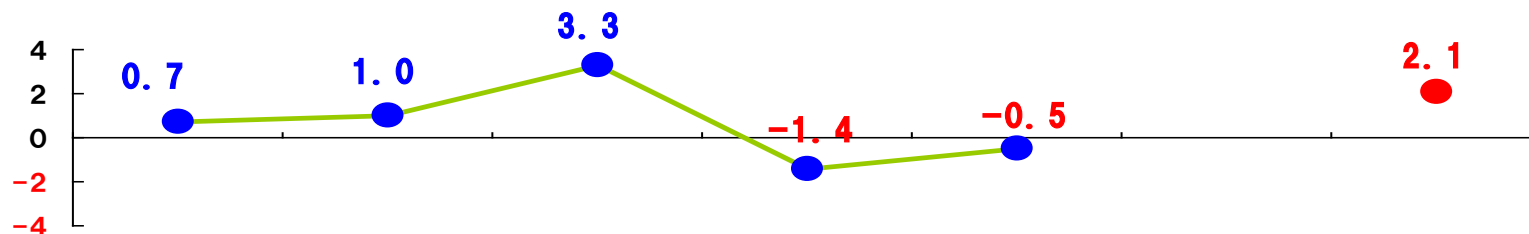


■経常利益（百万円）

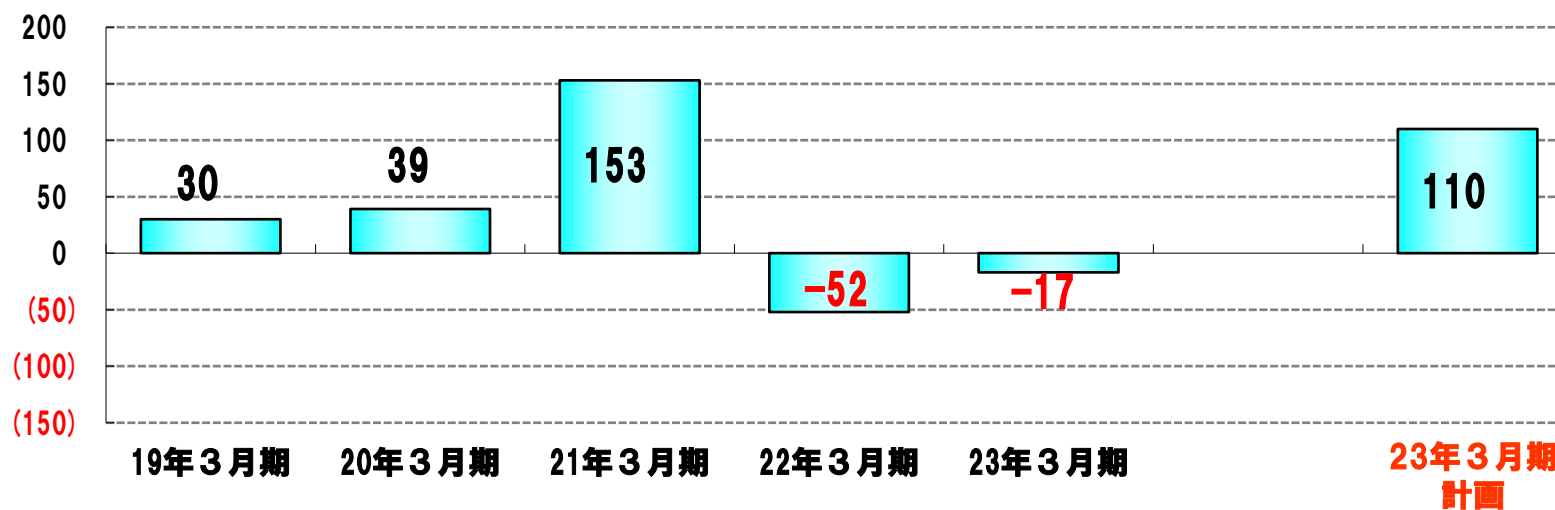


当期純損益

■売上高当期純利益率（％）



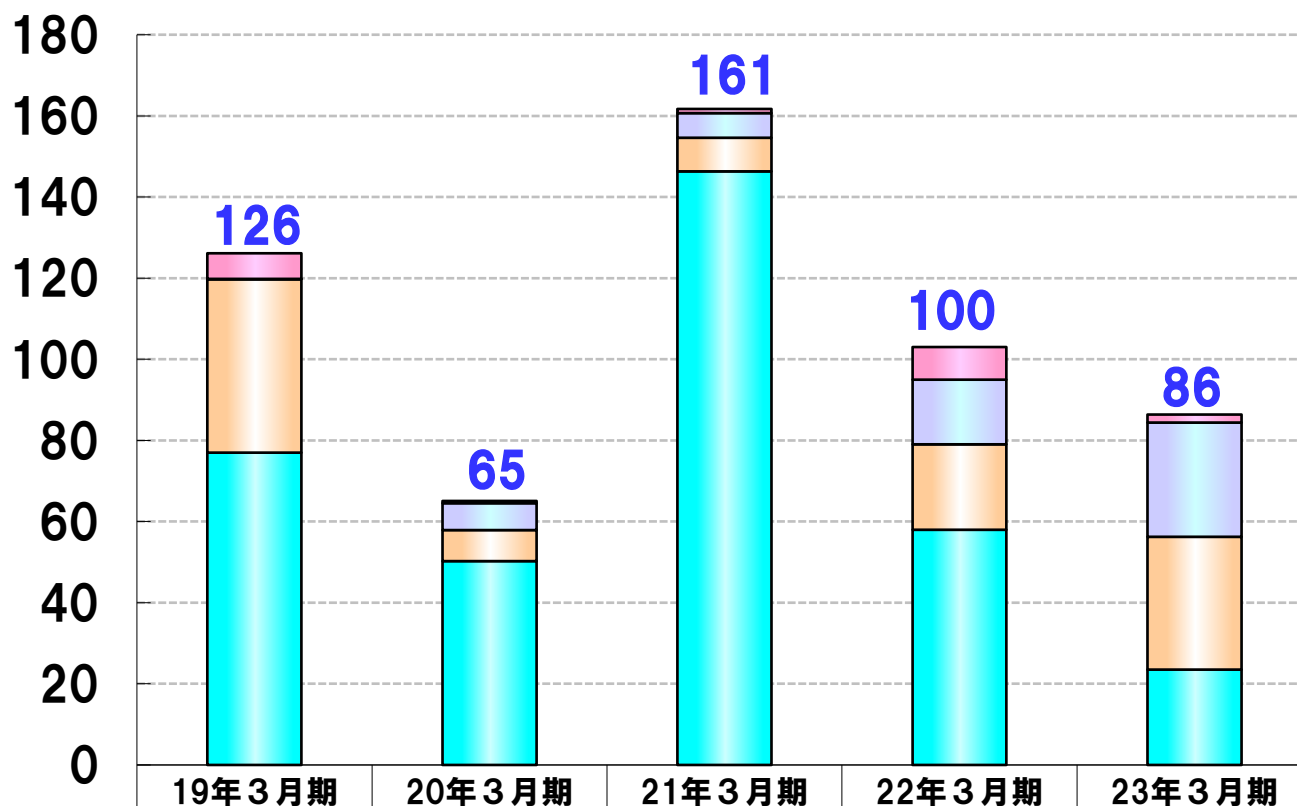
■当期純利益（百万円）



ROE	2.3	3.0	10.8	—	—
-----	-----	-----	------	---	---

設備投資

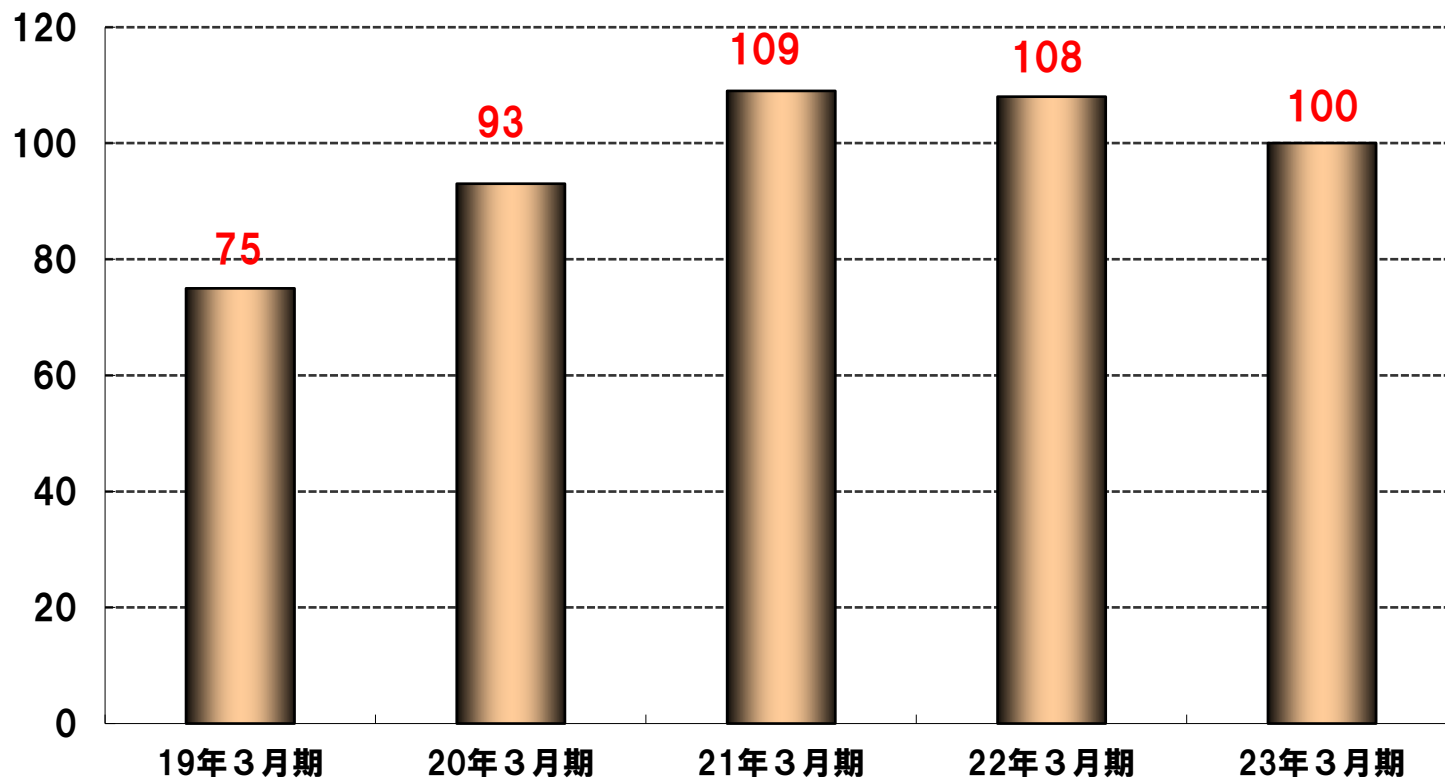
(百万円)



□環境対策	6.3	0.6	1.0	8.0	2.0
□合理化・省力化	0.1	6.6	6.1	16.0	28.2
□更新・維持・補修	42.7	7.7	8.3	21.0	32.7
□能力増強	77.0	50.2	146.3	58.0	23.5

減価償却費

(百万円)



貸借対照表

(単位：百万円)

期 別 科 目	2019年3月末	2020年3月末	2021年3月末	2022年3月末	2023年3月末
流動資産	2,049	1,787	1,889	1,626	1,445
(売掛債権)	(1,242)	(1,189)	(1,129)	(792)	(549)
固定資産	1,672	1,625	1,657	1,674	1,656
総 資 産	3,721	3,413	3,546	3,300	3,102
流動負債	1,696	1,436	1,337	1,111	945
固定負債	687	622	713	778	761
純資産	1,337	1,354	1,496	1,411	1,395
負債・純資産	3,721	3,413	3,546	3,300	3,102
(自己資本比率)	(35.9%)	(39.7%)	(42.2%)	(42.8%)	(45.0%)

キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

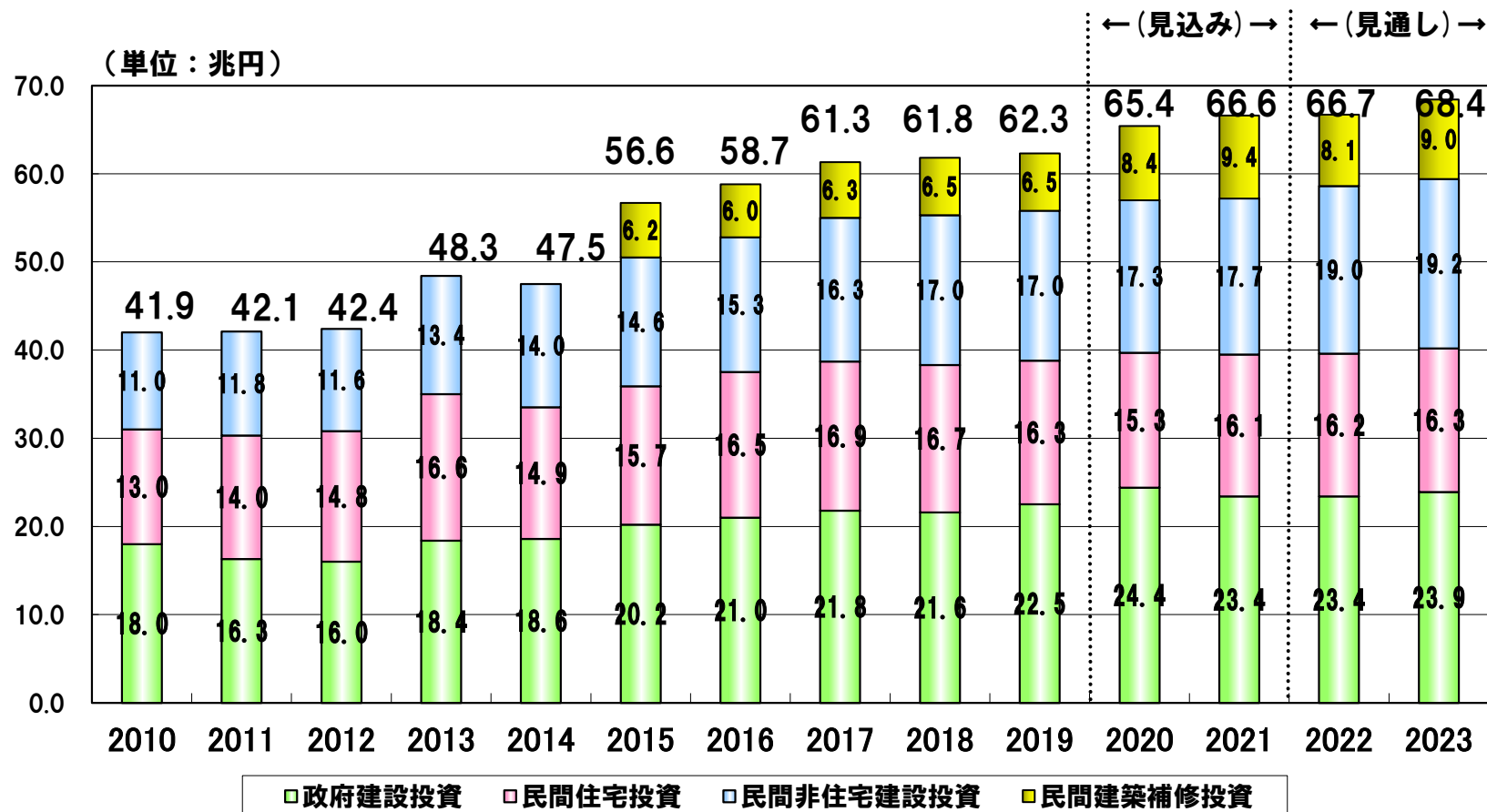
	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	390	11	210	186	232
投資活動による キャッシュ・フロー	△37	△136	△51	△105	△119
財務活動による キャッシュ・フロー	△8	△85	△4	△13	△44
現金及び現金同等物の 増加・減少(△)額	344	△211	154	67	68
現金及び現金同等物の 期首残高	374	719	508	663	730
現金及び現金同等物 期末残高	719	508	663	730	798



市場動向

市場環境～建設投資（名目値）見通し

2023年度の建設投資額予測は約68兆円であり、前年度比較で2.6%増と微増ながら積極的インフラ投資は継続見込み。



参考：（財）建設経済研究所
建設経済モデルによる建設投資
2023年4月12日発表より

建設分野のトピックス

国土交通省では一昨年(2021年度)に発表された「防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム」の直轄国道76事業の見通しと共に、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を基にした7つの取り組みに関する事業を公表しており、今年度は3年目となりさらに事業は加速していくものと想定される。

7つの取り組み

- ① 災害に強い国土幹線道路ネットワークの構築
- ② 道路の老朽化対策
- ③ 河川隣接構造物の流失防止対策
- ④ 高架区間などの浸水避難場所としての活用
- ⑤ 道路法面・盛土による土砂災害防止対策
- ⑥ 無電柱化の推進
- ⑦ ITを活用した道路管理体制の強化

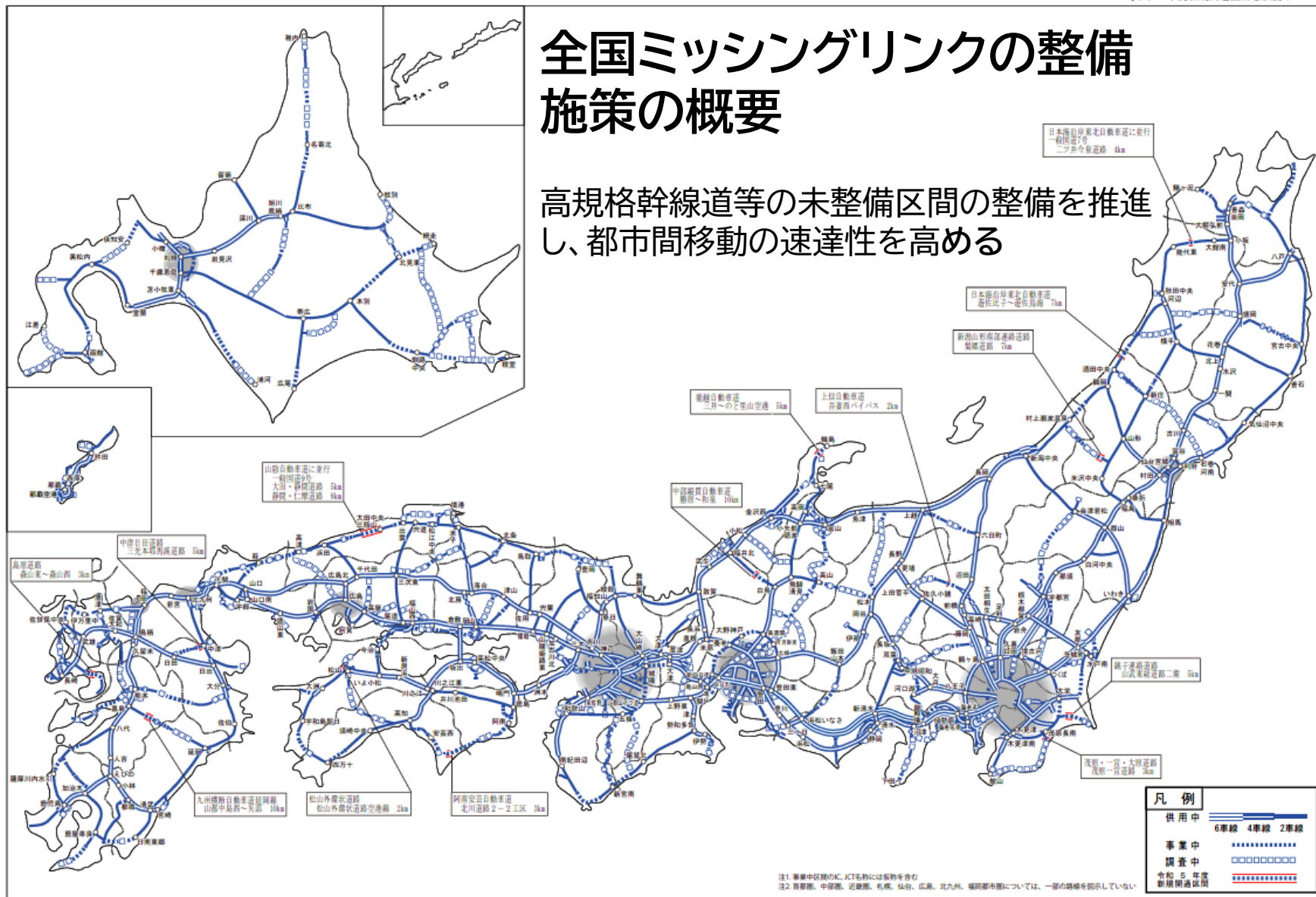
これらの施策は、当社の事業収益の柱となる工法に寄与する内容が盛り込まれており、今後中長期的な仕事量を確保する後押しとなることが期待される。

例えば、「①災害に強い国土幹線道路ネットワークの構築」については、5か年加速化対策により、高規格道路のミッシングリンク対象約200区間のうち約3割で全線または一部区間を2025年度までに開通することなどを達成目標に掲げている。

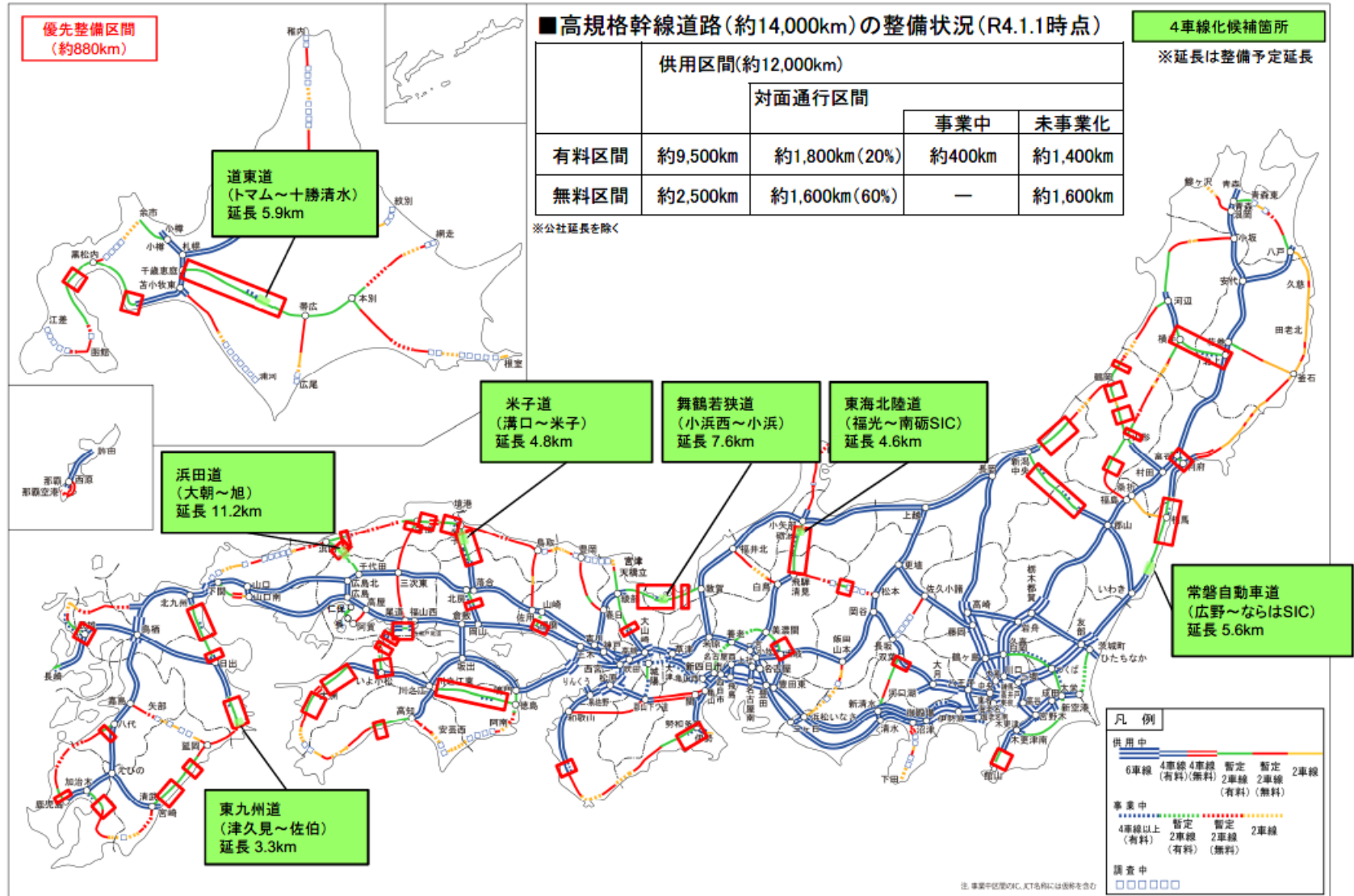
また、経済産業省より「デジタルライフライン全国総合整備計画」が公表され、令和6年度、新東名高速道路に距離100キロ以上の自動運転車用レーンを設け運送業の人手不足解消を支援する計画が明らかになり、さらに全国へ広げることが見込まれる。

全国ミッシングリンクの整備 施策の概要

高規格幹線道等の未整備区間の整備を推進し、都市間移動の速達性を高める



4車線化候補箇所



インフラ整備補助制度

主な個別補助制度

高規格道路・ICアクセス道路等補助制度

広域ネットワークを形成する等の性質に鑑みた高規格道路の整備及び、国土交通大臣が物流上重要な道路輸送網として指定する「重要物流道路」の整備について計画的かつ集中的に支援

高規格道路、スマートICの整備と併せて行われる、地方公共団体におけるICアクセス道路の整備について計画的かつ集中的に支援

物流の効率化など生産性向上に資する空港・港湾等へのアクセス道路の整備について計画的かつ集中的に支援

都府県境を跨ぐ構造物の整備を伴う道路の整備について計画的かつ集中的に支援



IC・空港・港湾等アクセス道路補助イメージ



都府県境道路整備補助イメージ

道路メンテナンス事業補助制度

道路の点検結果を踏まえ策定される長寿命化修繕計画に基づき実施される道路メンテナンス事業（橋梁、トンネル等の修繕、更新、撤去等）に対し計画的かつ集中的に支援

〇〇市 橋梁 長寿命化修繕計画 【個別施設計画】	〇〇市 トンネル 長寿命化修繕計画 【個別施設計画】	〇〇市 道路附属物等 長寿命化修繕計画 【個別施設計画】
記載内容 ・老朽化対策方針 ・新技術活用方針 ・費用削減方針 ・施設名・延長・判定区分 ・点検・修繕実施年度 ・修繕内容・対策費用 等	記載内容 ・老朽化対策方針 ・新技術活用方針 ・費用削減方針 ・施設名・延長・判定区分 ・点検・修繕実施年度 ・修繕内容・対策費用 等	記載内容 ・老朽化対策方針 ・新技術活用方針 ・費用削減方針 ・施設名・延長・判定区分 ・点検・修繕実施年度 ・修繕内容・対策費用 等
橋梁	トンネル	道路附属物等

既存インフラの機能増強
長寿命化修繕による維持・更新
に補助制度が確立

インフラ老朽化対策が急務

建設後50年を経過する社会資本の割合

	2018年3月	2023年3月	2033年3月
道路橋 [約73万橋（橋長2m以上の橋）]	約25%	約39%	約63%
トンネル [約1万1千本]	約20%	約27%	約42%
下水道管きょ [総延長：約47万km]	約4%	約8%	約21%

北海道

道東自動車道 軽量盛土

トンネル老朽化対策

液状化対策、地盤補強

北海道新幹線

東北

東北中央自動車道 軽量盛土

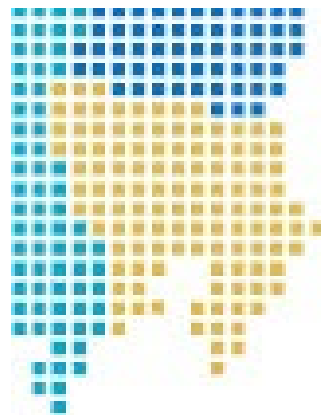
津軽自動車道 軽量盛土

トンネル老朽化対策

高速道路ミッシングリンク解消



関東



関東

茨城

栃木

群馬

埼玉

千葉

東京

神奈川

新東名高速道路 軽量盛土

東京都水道局 導水管、送水管整備計画

シールド工事

高速道路ミッシングリンク解消

民間プロジェクト

リニア中央新幹線関連 仮設道路、地盤改良

ライフライン整備（ガスパイプライン）など



中部

新潟

富山

石川

福井

山梨

長野

岐阜

静岡

愛知

中部

リニア中央新幹線関連 仮設道路、地盤改良

新東名高速道路 自動運転車用レーン付加

高速道路ミッシングリンク解消

水資源、農水関連事業（導水トンネル改修）

北陸新幹線延伸工事



近畿

新名神高速道路

大阪モノレール HYSC工法

高速道路ミッシングリンク解消



大阪万博会場及び周辺
(インフラ整備、都市整備事業)



国道バイパス関連 軽量盛土



中国・四国

インフラ老朽化対策

ガスパイプライン

高速道路ミッシングリンク解消

(山陰自動車道、

四国横断自動車道)

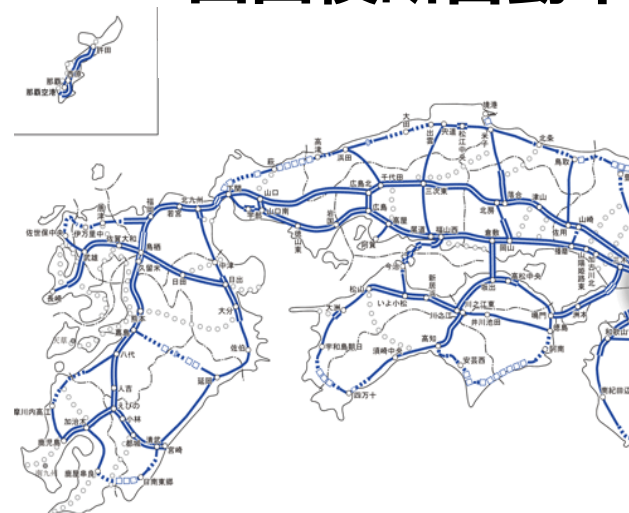
九州・沖縄

熊本震災・洪水復旧関連

電力会社設備更新

高速道路ミッシングリンク解消

(東九州自動車道)





II. 2024年3月期 業績予想

2024年3月期業績予想

(単位：百万円)

	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (予想)
受注高	3,706	4,000
売上高	3,572	4,300
売上総利益	669	820
販管費	694	720
営業損益	△24	100
経常損益	△17	100
当期純損益	△17	70

工事別受注高予想

(単位：百万円)

	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (予想)
気泡コンクリート工事	2,769	2,815
地盤改良工事	937	1,185
その他工事	0	0
計	3,706	4,000

売上高予想

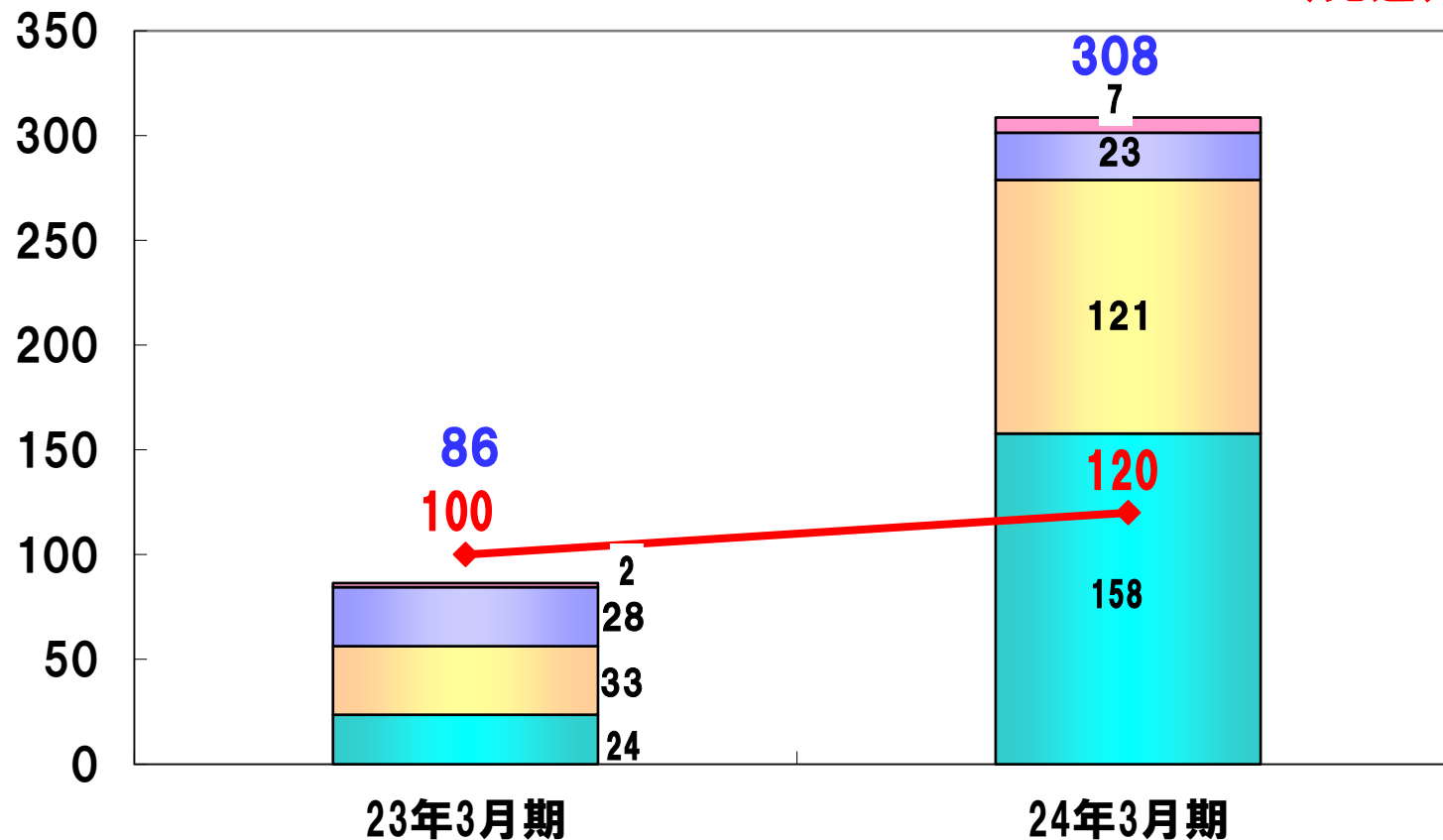
(単位：百万円)

	2023年3月期 (実績)	2024年3月期 (予想)
気泡コンクリート工事	2,578	3,020
地盤改良工事	972	1,260
その他工事	0	0
商品販売	22	20
計	3,572	4,300

設備投資と減価償却費

(百万円)

(見込)



能力増強 更新・維持・補修 合理化・省力化 環境対策 減価償却費



経営方針について

- 案件情報の収集力の強化

コンサルを中心とした上流営業の推進
(スペック活動の強化)

- 施工能力の向上

担い手の確保、教育・指導の強化、多能工化

- 技術開発活動の強化

「いいもの」を提供し続ける技術の深化、技術革新

- 働き方改革の推進

業務効率化の推進

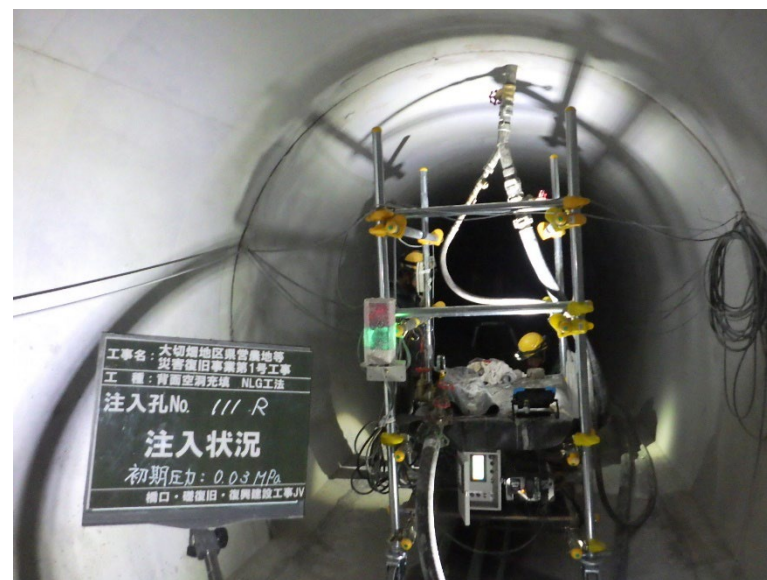
実現した開発技術 1/3

■ NLG工法 可塑性非エア系グラウト材充填工法

- 業界トップクラスの5,000mの長距離圧送が可能な空洞充填工法です。
- 可塑性の非エア系グラウト材で水中不分離性を有します。
- 今後拡大が見込まれるトンネル等インフラの補修補強市場に適した工法です。



プラント全景



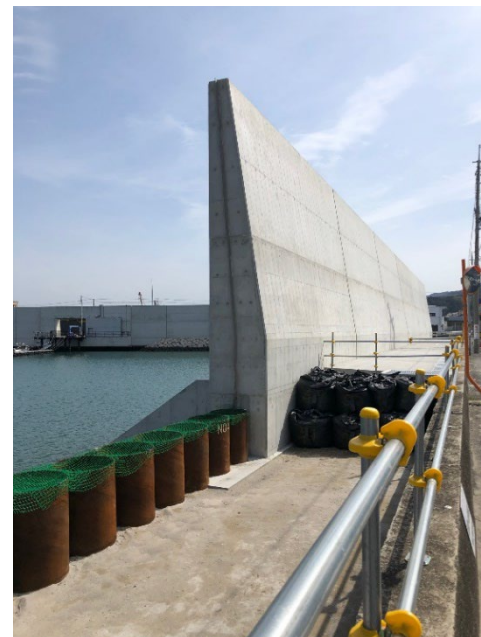
裏込め注入

実現した開発技術 2/3

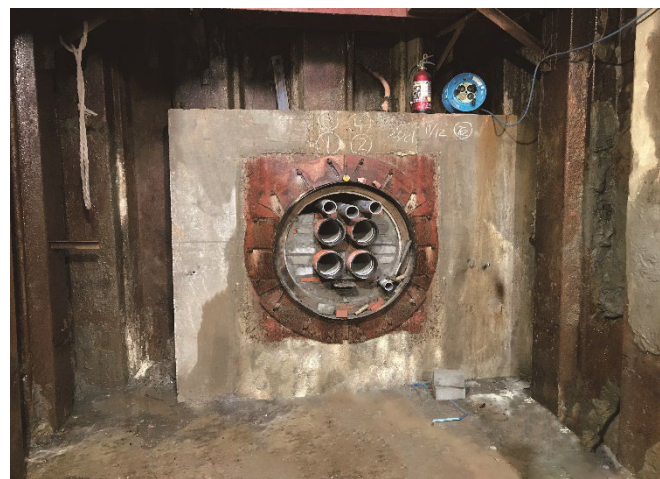
- **スィムグラウト** 耐水性エアモルタル
エアモルタルの弱みである**耐水性**を強化した「水に強い」空洞充填材です。

- **エアスラー** 高流動性エアモルタル
セルフレベリングに近い**高流動性**を有するエアモルタル。

当社の強みであるエアモルタルの新たな適用先を広げる材料として開発！！



港湾残置管理め戻し



送電線の中詰め

実現した開発技術 3/3 (2022年度 販売開始)

■ ライトフィルフォーム プレミックスエアモルタル

- 水と混ぜるだけのプレミックスタイプのエアモルタル
- コンパクト設計の専用プラントにより従来では適用性が低かった小規模工事や狭小箇所の施工が可能



専用プラント（イメージ）



製品混練状況



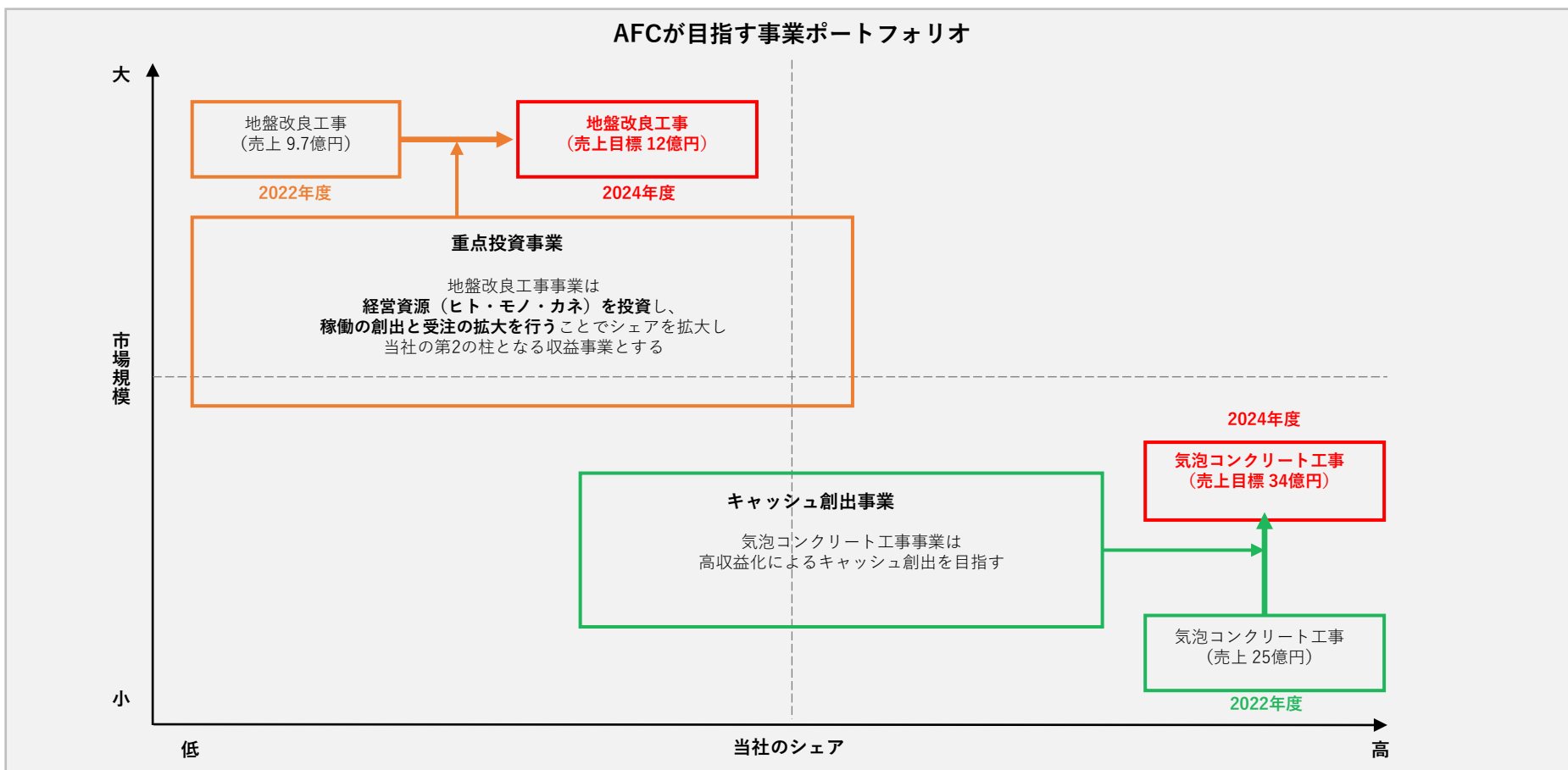
製品荷姿



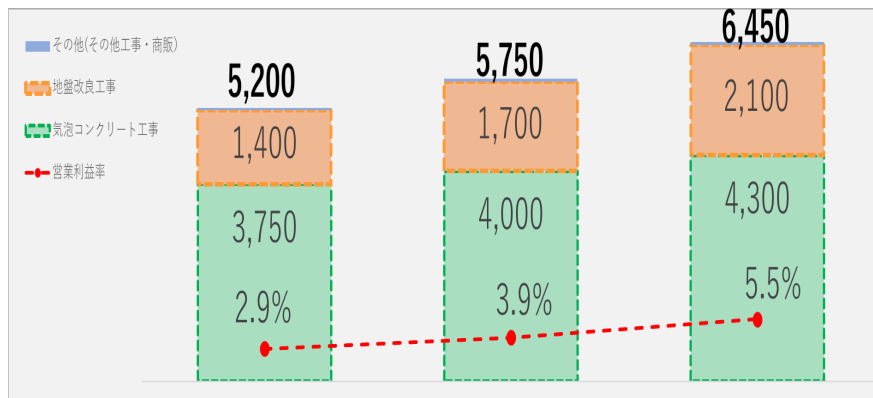
中期経営計画について

事業方針

- ・規模拡大を目指す場合、市場規模が大きく売上拡大余地のある地盤改良工事業の拡大が必須となる。
- ・地盤改良工事業の拡大においては、短期的には設備の購入や人員増強・教育によるシェア拡大、中長期的には外部からの経営資源の獲得による高収益化が必要である。高収益の気泡コンクリート工事業で獲得したキャッシュを地盤改良工事に投資することで、高シェア高収益の気泡コンクリート工事業に次ぐ第2の柱の確立を目指す。



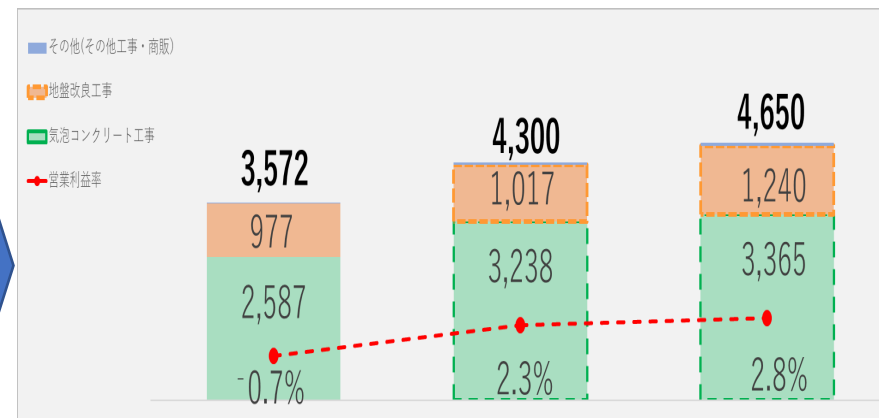
数値計画



(単位:百万円)

	2022年度	2023年度	2024年度
売上高	5,200	5,750	6,450
気泡コンクリート工事	3,750 (72.1%)	4,000 (69.6%)	4,300 (66.7%)
地盤改良工事	1,400 (26.9%)	1,700 (29.6%)	2,100 (32.6%)
その他	50 (1.0%)	50 (0.8%)	50 (0.7%)
営業利益	150 (2.9%)	220 (3.8%)	350 (5.4%)
当期純利益	110 (2.1%)	159 (2.8%)	250 (3.9%)
ROE	7.3%	9.5%	13.0%

数値計画（当初）



(単位:百万円)

	2022年度 (実績)	2023年度	2024年度
売上高	3,572	4,300	4,650
気泡コンクリート工事	2,587 (72.2%)	3,238 (75.3%)	3,365 (72.4%)
地盤改良工事	972 (27.2%)	1,017 (23.7%)	1,240 (26.7%)
その他	22 (0.6%)	45 (1.0%)	45 (0.9%)
営業利益	-25 (-0.7%)	100 (2.3%)	130 (2.8%)
当期純利益	-18 (-0.5%)	70 (1.6%)	90 (1.9%)

数値計画（見直し後）

本資料に関するご注意

本資料に記載されている当社の現在の計画、目標等過去の事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報に基づき作成したもので、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は様々な要因により、これら見通しとは大きく異なる結果になることもありえます。
